

平成29年度 地域懇談会 報告	
日 時	平成29年11月22日（水） 午後6時から7時10分まで
場 所	成沢交流センター
出席人数	(1) 市 民 7人 (2) 事務局 教育長、教育部長、学務課長、学務課課長、 適正配置推進室職員 計13人
内 容	(1) 教育長あいさつ (2) 学校適正配置の検討趣旨について、教育部長から説明 (3) 学校適正配置基の検討状況について、事務局から説明 (4) 意見交換
意見交換	<p>(質問) (成沢学区) 将来的には何校にするのか、見通しを教えてください。 通学のことを考えて、地域をまとめて新しい学校を中心の場所に作るという考えはあるのか。</p> <p>(事務局) 今年度は基本方針を固め、その方針に基づいて来年度に策定する計画の中で説明していく。学校をいくつにするかは決まっていない。 適正配置のやり方は、いろいろある。既存の施設を使って集約する、新しい場所に建設する、学校の位置を変えずに学区を見直すなど。先行して学校の統合に取り組んでいる市町村では、3校を統合し新しい場所に新校を設置する例もある。広域的に集約すると通学距離が長くなり、子どもたちへの負担が増えることもある。</p> <p>(質問) (成沢学区) アンケートに答えたので、関心があり参加した。参加者が少なく、地域の人の意識が薄いことを残念に思う。危機感がないのかなと思う。 学校を減らすということは、いろいろな人が関わってくる。なくすことにはエネルギーが要る。 堂平団地の子どもたちが成沢小に通っているのは、通学路の問題だったと思うが、諏訪小ではなく成沢でよかったのか。保護者の意識はどうだったのか。</p> <p>(事務局) 地域懇談会の周知方法は課題に感じている。 日立市は、学区制を敷いており、居住地で学区が決まっている。理由があれば変更も許可している。</p> <p>(意見) (成沢学区) 堂平団地からの通学は、諏訪小への通学路が危険だということで、保護者からも要望があり、また、堂平と青葉台は繋がっているので地域全部が成沢小に通学していると記憶している。以前は、堂平団地だけで子どもがあつたが、子どもが減り、青葉台団地の子ども会と合併した。 成沢地区の保護者に危機感がないわけではない。保護者は関心を持って</p>

いるし、心配もしている。危機感がないというより行政を信頼している。行政がいろいろ検討して決めることだから、間違いはないだろうという気持ち。実のところは、成沢小がどうなるかはよく話題になっていて、もし、成沢小がなくなるときは、受け入れるしかないだろうと、自分たちの間では言っている。教育委員会の決定は、それが子どもたちのためなのだから、受け入れようという気持ちから参加がないのだと思っている。他市町村の例では、大人が反対し、卒業生が母校をなくすなど反対することが統合の妨げになることが問題。学校は地域のシンボルではあるが、基本は子どもたちのためのものである。

PR不足というが、たくさんの人に来てもらうことが目的ではない。そのことに力を注ぐ必要はない。本来の目的である子どもの環境を考えることに力を使ってほしい。万が一でも成沢学区のPTAに動員などかけないでほしい。普通に情報発信して、参加するかしないかは、住民の判断だ。

(事務局)

諏訪小から成沢小への変更は、指定学校変更ではなく学区の見直しだったということ、不勉強で申し訳なかった。

(質問) (成沢学区)

アンケート詳細を教えてほしい。統廃合について尋ねていないのか。

(事務局)

懇談会の資料には、紙面の都合上、一部の抜粋のみを掲載しているが、統廃合についても質問している。おおむね7割が、学区の見直しで対応できなければ統合もやむを得ないと答えている。アンケート結果も踏まえて、小学校2学級以上、中学校3学級以上という基準にしているが、一律に全ての学校にあてはめて進めていくことは難しいと考えている。その地区、その地区の子どもたちにとって、どのような環境が最適なのかを考えていきたい。

(教育部長)

日立市は、平地には工場用地が多く、居住できる平地がないため、現在の都市の形(山側団地)となった。

人が増えて学校が増えるときは、問題がない。学校を減らしていくときには、感情的なものも含めていろいろな問題があるが、「あの時にやっておけば」と後悔したくないので検討している。行政で計画は立てるが、最終的には地域で考えてもらうしかない。合意が得られれば進めていく。

遅すぎるという意見もあるが、皆さんに関心を持っていただき、大人が真剣に考え、世代を繋いでいかなければならない。

以上